

私書箱は
☎ 100-91
東京都中央郵便局
私書箱916

AA日本ニューズレター

No.2

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03(3590)5377 ☎160 東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル9F

個人献金やバースディ献金も

GSO代表から献金についてのお願い

AAの最初のメンバーのビル・Wは、「ビルに話させると、また献金の話をすると、とされているが、今回も献金の話をします。AAを支えているのが、私達の献金だからです」と言ったことがあるそうです。

私もまたビルにならって同じお願いを皆様いたします。

AAは自由意志で参加した集団であり、自分達の献金だけで自立し、どこからもヒモをつけれない団体です。

お金のある人は、お金を、時間にゆとりのある人は、時間を。能力のある人は、能力を。AA全体のために役立たせる。これがAAの活動の基礎です。

あるメンバーは「AAに対する献金は一種の投資であり、ある種の保険料である。献金によってAAは有効に活動が出来、私達の生活はAAにその源泉があるからだ」と言っています。

AAの献金は、全世界で様々な種類のものが生み出されています。

おなじみのミーティングのカンに入れるカタンと音のする献金。あるグループでは「長い間、私達の献金のカンは、振ると大きな音がしましたが、今では音が変わってきました」と言っております。

この他に、誕生日のときにするバースディ献金をGSOに届けてくれる仲間がいます。

酒をやめて始めて手にした月給袋から、喜びと感謝と共に献金を送ってくれたメンバーもありまし

た。オフィスにお金がなくなる。どこからとなく送られてくる献金もありました。

AA全体の活動をささえるために定期的に持参してくれる人もあります。

このような献金がGSOに集まり、AAの唯一の目的「まだ苦しんでいるアルコール中毒者にメッセージを運ぶこと」のための仕事に使われています。

またAAの献金をお金でなく、時間で支払うメンバーもおります。この人達は、AAの仕事を無料で奉仕することで支えています。絵を描いてくれるメンバー、翻訳やパンフレットを作るために努力してくれる仲間がいます。

私達は、活動をより活発にしようとし、事務所を交通の便利な池袋に移転し、専従の職員の数も増加させたいと考えています。

今日ケースワーカーさん達の研修会に出席いたしました。熱心な討議を聞き、その中で語られる、AAのグループ活動の質の向上の要求を感じ取りました。これらの方々との一層の連絡の強化を計る必要を感じました。

この状況の中で、GSOをしっかりさせなければと思ひ、皆様に再び献金のお願いをする次第です。

AAの未来のメンバー達のために献金を。

(AA日本GSO代表=市川N)

る人びとが必要です。この人たちは、いわば、私たちAAメンバーの代わりに、電話をかけ、人と話をし本を発送しているのです。

この人たちの月給は、私たちの献金でまかなわれています。

いくらかの献金がいるのか？

メンバーのひとり一人が、月に、1,000か2,000円をJSOに送金するだけで充分なのです。煙草代、コーヒー代を節約して、できる程度のお金で十分なのです。

私たちの仲間も、それだけメンバーが増えたのです。

「愛と謙遜を通してのサービス」

グアテマラの世界AA集会で感動したこと

- 評議員報告 -

86年10月19日から23日まで、中米グアテマラで開催された第9回ワールド・サービス・ミーティングにAA日本の代表として参加された、評議員の現地での貴重な経験のレポートが本誌に寄せられた。紙幅の都合で全文掲載が出来ないことは、まことに残念だが、その一端をご紹介します。詳細は評議員の報告書とBOX-916などを見られたい。

グアテマラには27カ国のAAの仲間が、ホテルに泊りこみで参加した。ミーティングを通じてコーヒーブレイク、レセプション、食事、ワークショップ、委員会等が和気あいあいのうちに進められた。

今回最も感銘をうけたのは、ニューヨークGSOのジョンの言動と、彼を通して個人や委員会、理事会、総会でのディスカッション(討議)の重要さと、リードするチェアマン(司会者)の大切さ、を教えられたことだ。

ジョンは1954~5年頃、日本で毎夜泥酔していたそうだ。ミーティングが始まったばかりの時に、堅くなっていた私に、「ここにいる人達は皆酒を飲んでいて。以前の酔っぱらいだよ。リラックスして下さい」と、話しかけてくれたのも彼。

「電話によるサービス」のテーマでイタリアの女性評議員のスピーチの後、質問と意見の中で、「電話の受け手は本人とノンアルコールのどちらが望ましいか」について意見が対立し、激しいやりとりが交わされたが、司会のジョンは終始冷静だった。12番目のステップだから本人だ。いや家族からの電話が圧倒的に多いからノンアルコールだ。とそれぞれ自説を譲らない。

因みに帰途訪問したロスアンゼルスセントラル・オフィスの24時間電話サービス(電話台は3~4台)は全員本人のボランティアだった。

ドイツのこれも女性の評議員が

ら「医師会の集会でAAの仲間がAAの書籍を売るのは、アノニミティに反する、と西独の一部の仲間が言っているがどうか?」という質問が出た。それはコンベンション(集会)での質問で、これらのAAメンバーが答えるケースが多いからだそう。

時にはマトを外れた激しい意見もまじって、盛んな論議があったが、ディスカッション(討議)は正しい答えに導かれた。カナダの評議員が「100%アノニミティを守るのは、新聞・電波・映画の分野」だけだ、としめくくった。

アメリカ・カナダの評議会でもよくもめるのは、金銭問題もさることながら、書籍、パンフレットに関することだ、とジョンが教えてくれた。

今度出版されるビッグブックの小型廉価版のことも大もめだったらしい。ビッグブックでなくなるとか、収入が減るから反対だとか...。(文責任 編集部)

送 金 先

AAニホン・サービス・オフィス
郵便振替 東京 8-68876

JSOを支える月1,000円の献金を

(関東サービス常任委員長)

私たちAAのメンバーは、仕事を持ち家庭があり、そしてAAの活動をしています。

AAの善いメンバーは、広く社会的に尊敬されていることだと言われている。このため、私たちは12番目のステップ「まだ苦しんでいるアルコール中毒

者にメッセージを運ぶこと」と「この原理をあらゆる分野に実践すること」をしているわけです。

私たちAAのメンバーは、AAの活動だけに専任するプロではありません。しかし、AAのサービス・オフィスのようなところでは、AAの仕事に専従す



BOX916委員会

活字のミーティング

みんなで新しい文化を創りませんか

毎月、原稿の割りつけが終ると、ほっとする。今月号もBOX916は発行出来るのだ。来月号の原稿のストックは何もない。一冊を出すのに精一杯だが、すぎてみると、5年と5カ月、毎月欠かさずにBOX916(旧7956)は、発行されつづけている。5年前、手書きで始まったのが86年の12月号は20ページ、写真入りで、1,500部発行されようとしている。出来は別としても、日本のAAの発展とともに、BOX916も成長していると言える。1,500部のうち、購読者部数は700部で、800部は広報として、アルコール問題に関心をもつ人達に渡されている。

無料発送をしている人達を対象として、年間購読をお願いしたところ、50部が新たに年間購読者になって頂けた。少しずつでも、BOX916への関心と支持が高まっている、と感じておりますが、ご意見は? これからのBOX916の発展は、BOX916委員会はもとより、AA日本のメンバー、グループにかかっていると言えよう。気楽にミーティングで話すように、文章を書いてみませんか。そして、多くのメンバーとアルコール問題に関心を持つ人達の、経験の分かち合いとして、又「まだ苦しんでいるアルコール中毒者へのメッセージ」として、全国のすみずみまで行きわたるように、BOX916委員会も努力いたします。

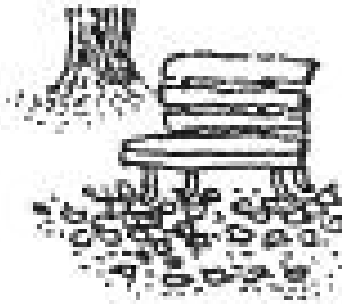
広報委員会

AAの原理の正しい実現のために

地区集会のすすめとニューズレターの発刊と

私達はAA日本の活動を、メンバーや関係先の方々に、広く正しく伝えてゆくパイプの役割をするのが、この委員会だと思っている。そのため毎月一回以上定例及び臨時の集まりをJSDで行っている。そこで、いろいろな情報や資料を検討しながら、今私達がどう活動することがいちばん大切かを決めて、今出来ることから早速やるようにしている。委員会が出来てから暫くの準備期間のあと、今やっていることは、大別して次の二つになると思う。AA日本の各グループを、首都圏から始めて、各地区地域に根づいた「住民運動」として定着させるように進める潤滑油の役目を果たすこと。86年には、この目標で城東地区、北多摩地区で、その他の各グループ間の風通しをよくし、協力し合う体制を整え、行政や医療機関への働きかけの足並みを揃えるようにした。そして今千葉地区と。具体的に私達がしたことは、地区グループのメンバーと一緒に地区としてのコンベンション(集会)を催すことをやったのだが。AAニューズレターを発行し、無料でメンバーと関係先に配布すること。

これも86年秋のラウンドアップがそのきっかけとなった。編集発行した私達自身さえも、この第1号は不満足な出来栄のものしかお見せ出来なかったが、とに角、形のあるものを提供することだけを最初の目標にした。これを叩き台にして、皆の力で時間をかけ、号を重ねて行けばきっといいものが出来るだろうと思っている。そしてこの2号だ。私達はゆっくり時間をかけてやろう、——時間はかけても必ずやり続けて行こう、と思っている。そんな訳で私達は、総務・BOX916・病院施設等、AA日本のサービス活動の窓口になっている各委員会の助けを受けながら、一歩一歩目標達成に努めていきたい。仲間の皆様のご援助とご威力を切にお餅い致します。



グループだより

①ミーティングの度毎に その日の献金を発表する

中央地区 千代田グループ 「今月のグループの収支残高は261円です」と会計報告。皆で頭を抱えてしまったものでした。それからはミーティングの終了後に必ず、「今日の献金は 円ありました。ありがとうございます」と、その都度発表し、献金の大切さを全員で分かち合うようにしています。水・木曜、週2回のミーティングで一年前にスタートしました。当初はこの2回のミーティングに少ないということで、ひけめを感じていました。そのうちにその分他のグループに足を運べるようになり今は逆にそのことを大切にしています。今でもグループの台所は厳しいのですが、貧しいけれども笑いだけは溢れるほどあります。そして、今グループ全体の要望で月一回の伝統ミーティングを持つことも出来るようになりました。グループの特色といえば、何といても女性が多く、ヤングからかつてヤングであった人まで、色とりどり。この病気の過程に於いての恵みのせいでしょうか、独身女性がまた多いのです。でも、千代田グループをホームグループとする男性も遂に現れました。更に和気あいあいの雰囲気です。皆のグループですから、何でも皆で決めます。ビジネス・ミーティングでも記名投票を用いたり、ディスカッションで活発な意見が飛び交わされています。これからの成長をどうぞお祈り下さい。(N)

②忙しい毎日の暮らしに 堪える力を与えてくれる

城東地区 墨田グループ 本所・駒形・向島・八広・京島・墨田川と広い地区の中に墨田グループの本所ミーティング場があります。近くに両国国技館、忠臣蔵の吉良邸や川向こうの浅草寺など名所旧跡多いところ。いつもどこかのんびりして、さらっと気楽に、下町風情一ぱいといった感じ。メンバーは一人一人ユニークな個性を出しあいながら、「笑う門に福来たる」でリラックスした雰囲気でのミーティングです。日々の様々な身のまわりの出来事を正直に話合って解決してゆくグループ、とでも言いましょうか。或る時は真剣に、やる気をもって、生き生きと。又成る時はどんと腰を据えて黙想し。忙しい仕事を抱えた毎日を送っている仲間が多いだけに、ここで

のリラックスしたフィーリングがとても力になつています。土・日のミーティングには各施設の仲間も参加して、多勢になりますが、グループのメンバー全員がいつも願っていることは、自分のためのミーティングであると共に、今まだいろいろに悩み苦しんでいる仲間達を、いつでも喜んで暖かく迎えたいということです。共に弱さをもった人間同志が、互いの弱さを認め合い、信頼し尊敬し合い、新しく生きる力を分かち合うふれあいを続けて行きたいと切望しています。(A)

③自分自身のためでなく

城東地区 足立グループ 都内23区の中で、一番北に位置している足立区内のグループです。グループは、かなり古くから活動し続けているので、オールド・タイマー~ニューカマー、様々な経歴・経験を経たメンバーが一同揃ってのミーティングが、いつも開かれます。各自が、それぞれの経験や現在の心境を語り始めると、1時間半がアツという間に過ぎてしまいます。自分自身のためだけでなく、思いやりの心もち合い、寄り合って飲まない毎日を楽しく過ごすためのミーティングでのオールド・タイマーの言葉は、いつでも新鮮で味の濃いものを感じますし、ニューカマーの方たちの話も、また、それと違った形でポツポツと語ってくれますと、つい忘れがちになる初心に戻させられ、心がひき締まります。そして、言葉がなくても相通じる何かを感じさせる時もあります。このグループは、決して命令はしませんし、「...ねばならぬ」はありません。“飲む、飲まない”も、皆、自分で決め、AAの道を毎日歩いています。なのに、ミーティングの時間になると、当然のように集まってきました。そして、いつからか、働きだしているのです。都内で2番目に広い面積と、3番目に多い人口の足立区。その足立区が、又、特にアルコール中毒者が多勢いると聞きます。この現象を誇るべきか? 嘆くべきか? 足立区の憲章“自立をめざす足立” 足立区内でも、今年10月から発展的に独立した北千住グループで、曜日をかえ開いています。よろしく。(O)

